

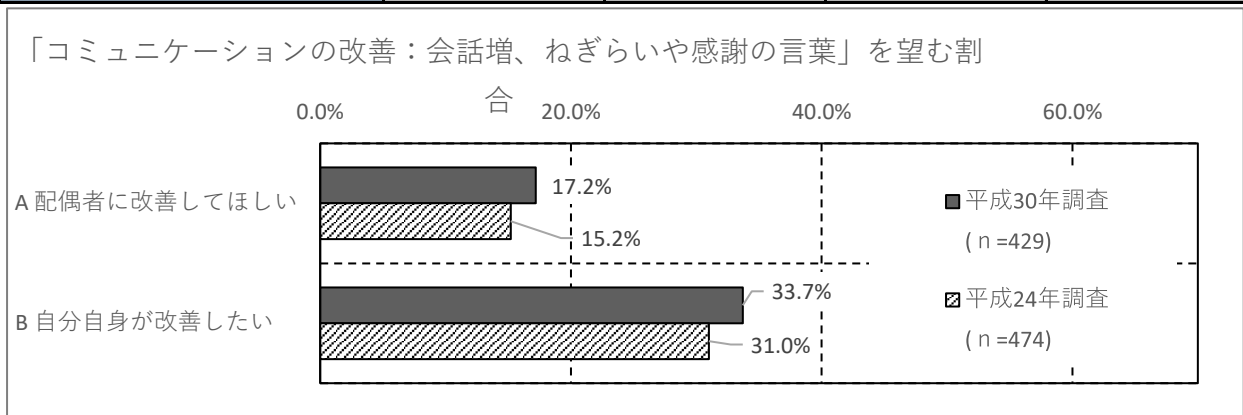
男女共同参画市民意識調査結果（抜粋）

参考資料 1

■ 「コミュニケーションの改善：会話増、ねぎらいや感謝の言葉」を望む割合

配偶者に望むことの中で「コミュニケーションの改善」を望む割合が男女ともに高く、平成24年調査と比較してわずかではあるが増加傾向にある。

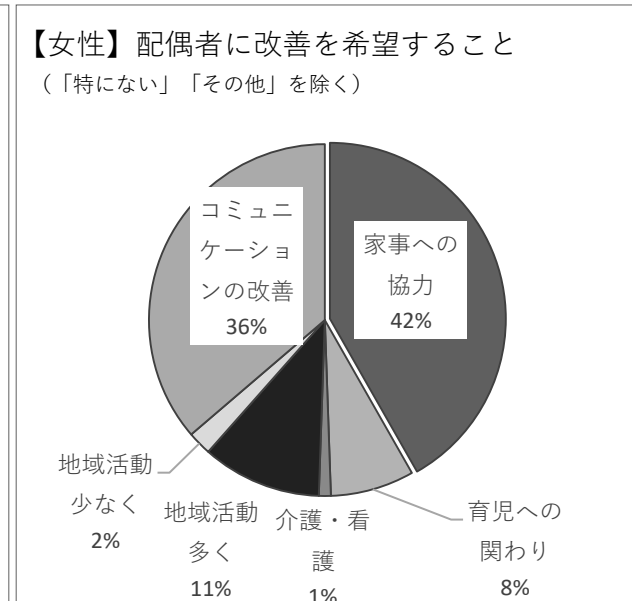
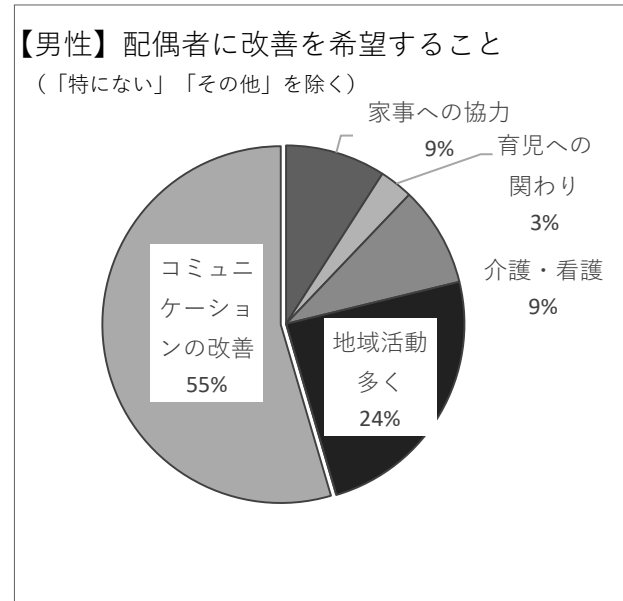
	平成30年調査 (n=429)	平成24年調査 (n=474)	平成21年調査 (n=454)	平成17年調査 (n=211)
A 配偶者に改善してほしい	17.2%	15.2%	-	-
B 自分自身が改善したい	33.7%	31.0%	-	-



■ 家庭生活において配偶者に改善してほしいこと

- ・ 「特にない」を除くと男女ともに「コミュニケーションの改善」を望む回答が高い傾向がある。
- ・ 男性は「コミュニケーションの改善」が最も高く、次いで「地域活動を多く」が高い。
- ・ 女性は「家事への協力」が最も高く、次いで「コミュニケーションの改善」が高い。

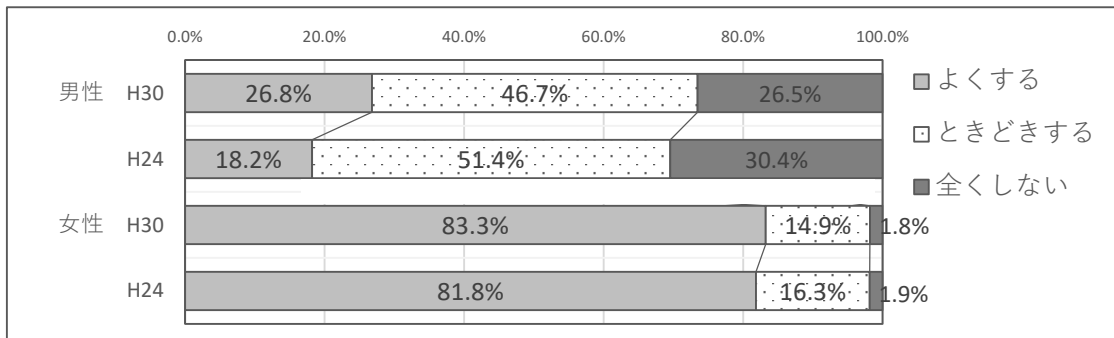
	男性 (n=191)	女性 (n=237)
特にない	74.1%	35.4%
家事への協力	2.2%	24.1%
育児への関わり	0.7%	4.4%
介護・看護	2.2%	0.6%
地域活動多く	5.8%	6.3%
地域活動少なく	0.0%	1.3%
コミュニケーションの改善	12.9%	20.9%
その他	2.2%	7.0%



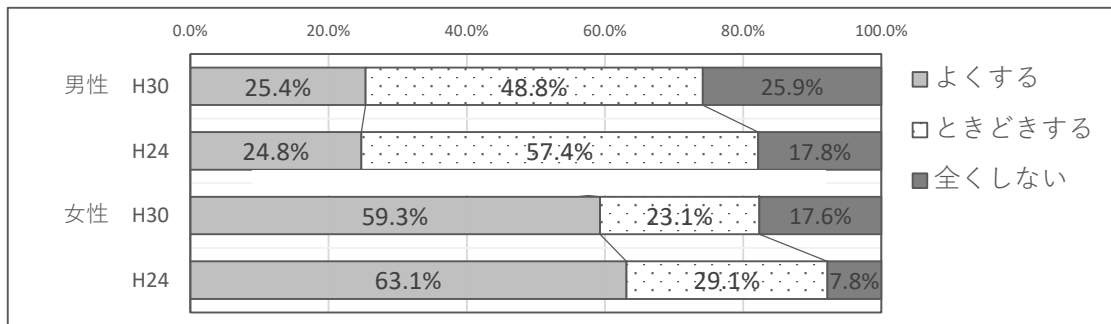
■ 固定的役割分担意識（家庭生活のなかでの参画現状） ※専業主婦（夫）、無職、学生を除く

- ・家事・育児・介護について「よくする」と回答する男性の割合は低く、女性へ役割分担が偏っている。
- ・「家事」の男性の参画について、平成24年調査と比較し「よくする」と回答する男性が8.6ポイント増加している。

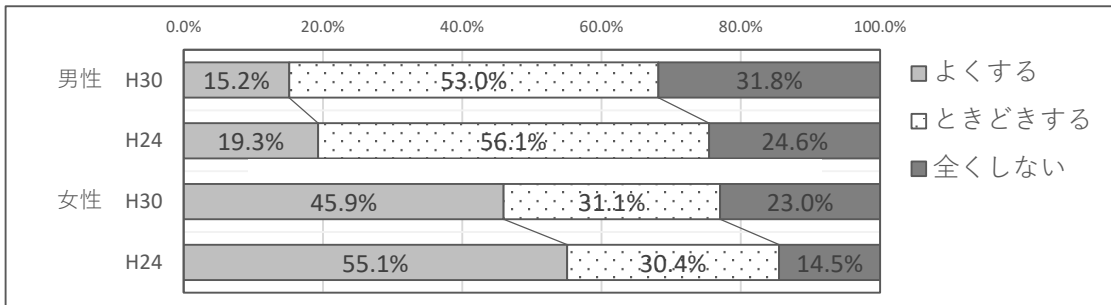
- ・「家事」の役割分担：食事のしたく、食事のかたづけ、掃除、洗濯、日常の買い物の5項目合計



- ・「育児」の役割分担：乳幼児の世話、子どもと遊び、子どもの教育の3項目合計



- ・「家族の介護・看護」の役割分担



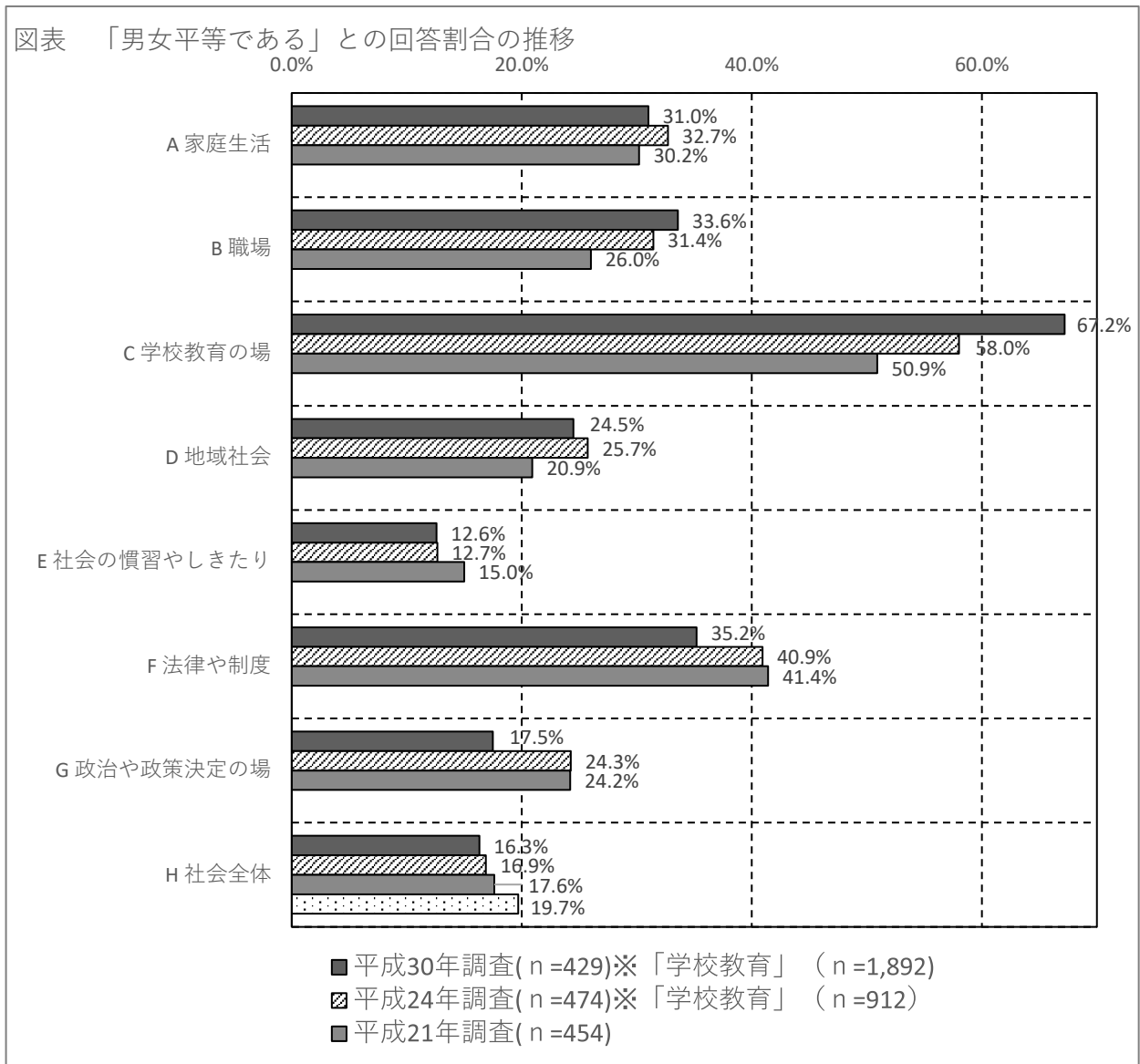
■男女の平等感（「男女平等である」との回答割合の推移）

- ・各分野において、過去の市民意識調査と比較すると、全体では横ばい傾向である。
- ・「職場」「学校教育の場」の分野では調査を重ねるごとにプラスとなっている。

「男女平等である」と回答した割合

	平成30年調査(n=429)※「学校教育」(n=1,892)	平成24年調査(n=474)※「学校教育」(n=912)	平成21年調査(n=454)	平成17年調査(n=211) ※「H 社会全体」のみ
A 家庭生活	31.0%	32.7%	30.2%	
B 職場	33.6%	31.4%	26.0%	
C 学校教育の場	67.2%	58.0%	50.9%	
D 地域社会	24.5%	25.7%	20.9%	
E 社会の慣習やしきたり	12.6%	12.7%	15.0%	
F 法律や制度	35.2%	40.9%	41.4%	
G 政治や政策決定の場	17.5%	24.3%	24.2%	
H 社会全体	16.3%	16.9%	17.6%	19.7%

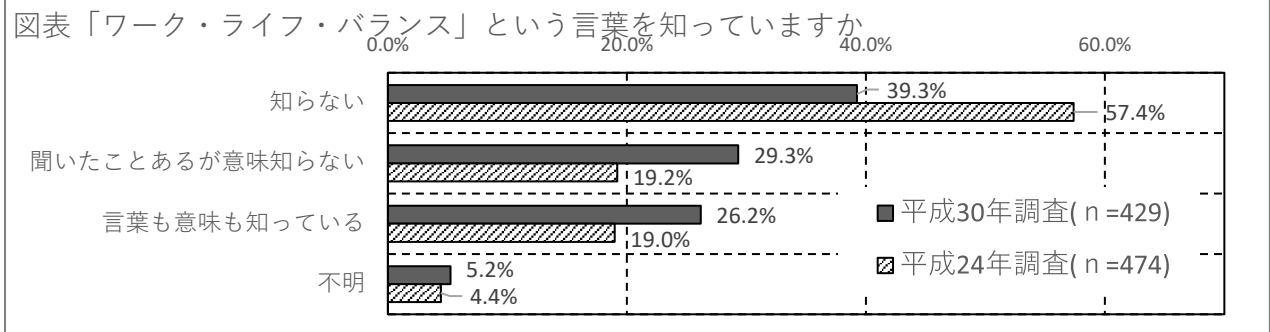
※「学校教育の場」は、中・高校生及び教職員アンケートの結果によるもの



■ 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

過去の市民意識調査と比較すると、「知らない」の回答割合が18.1ポイント低くなり、「聞いたことがある」「言葉も意味も知っている」の回答割合が大幅に増えており、「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は上がっている。

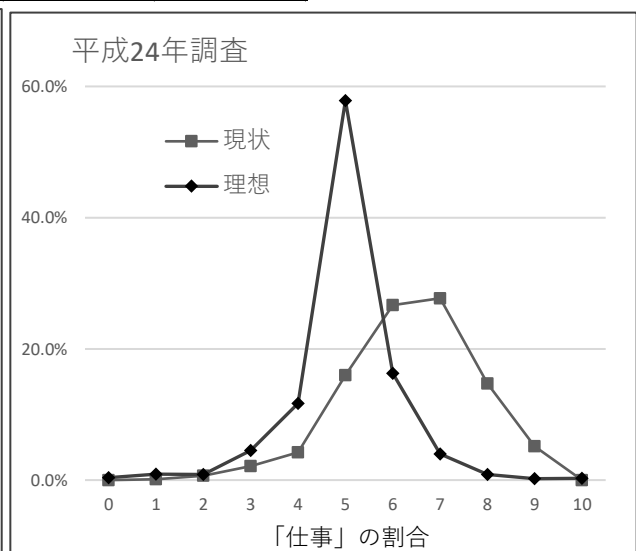
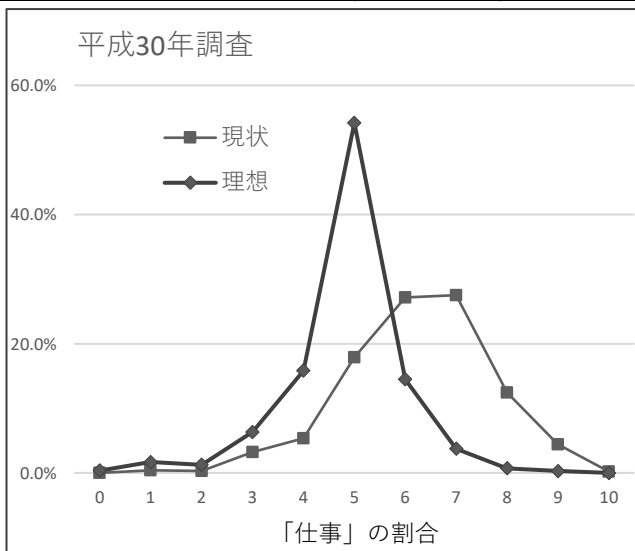
	平成30年調査 (n=429)	平成24年調査 (n=474)
知らない	39.3%	57.4%
聞いたことがあるが意味知らない	29.3%	19.2%
言葉も意味も知っている	26.2%	19.0%
不明	5.2%	4.4%
合計	100.0%	100.0%



■ 日常生活における「仕事」と「プライベート」の割合（現状と理想）

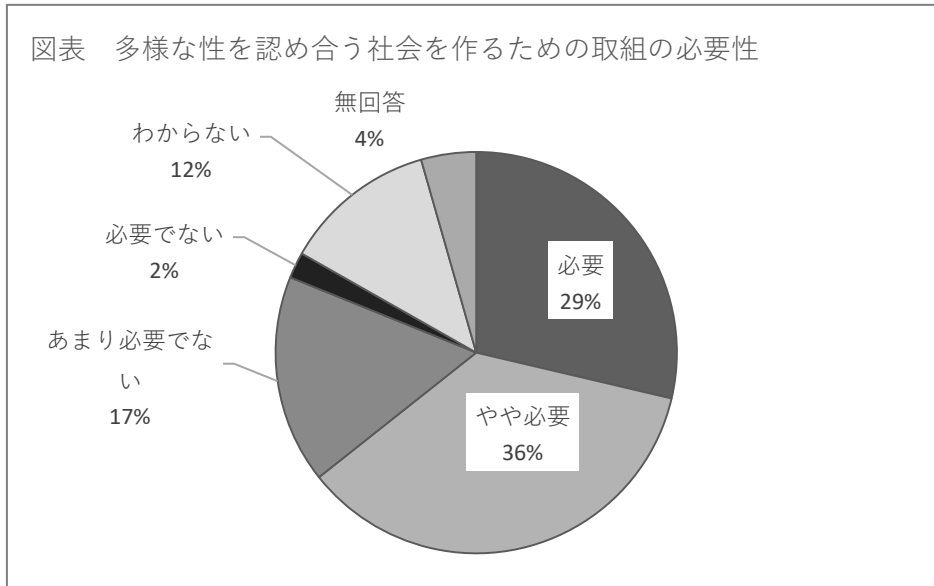
- ・理想は「仕事：プライベート＝5：5」である割合が最も多い。
- ・現実には「仕事：プライベート＝7：3」である割合が最も多い。（平成24年調査も同様の傾向）

「仕事」：「プライベート」	平成30年調査		平成24年調査	
	現状	理想	現状	理想
0：10	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%
1：9	0.4%	1.7%	0.1%	0.9%
2：8	0.3%	1.3%	0.6%	0.9%
3：7	3.2%	6.3%	2.1%	4.5%
4：6	5.3%	15.8%	4.2%	11.7%
5：5	17.9%	54.2%	16.0%	57.8%
6：4	27.2%	14.5%	26.6%	16.3%
7：3	27.5%	3.7%	27.7%	4.0%
8：2	12.5%	0.7%	14.7%	0.9%
9：1	4.4%	0.3%	5.1%	0.2%
10：0	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%
未回答・その他	1.1%	1.1%	2.6%	2.2%



■多様な性を認め合う社会を作るための取組の必要性【新規調査項目】

・『必要である』（「必要だと思う」「やや必要だと思う」の合計）との回答が64.3%と高くなっている。



■多様な性を認め合う社会を作るための必要な取組【新規調査項目】

男女とも「教育現場での啓発活動、配慮」が最も高く、次いで「法律等の整備や社会制度の見直し」が高くなっている。

